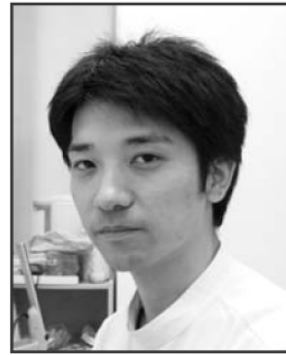


経鼻内視鏡検査について



内科医師

豊田 亮

山香病院だより vol.45

の方は経鼻内視鏡検査はおこなっていません。

より負担の少ない経鼻内視鏡の登場によって、内視鏡検査がさらに身近なものになることが期待されています。以前に内視鏡検査を受けて、もう二度としたくないと思った人でも、経鼻内視鏡なら比較的楽に検査を受けられるかもしれません。食道癌や胃癌なども、早期であれば内視鏡で治療できるようになってきました。

早期発見・早期治療を行うためにも、定期的な検査をお勧めします。

当院では、苦痛が少なく安全で正確な内視鏡検査を心がけています。経鼻内視鏡検査も広めていきたいと考えています。一度検査してみようと思われる方や何か気になる症状のある方はお気軽にご相談ください。

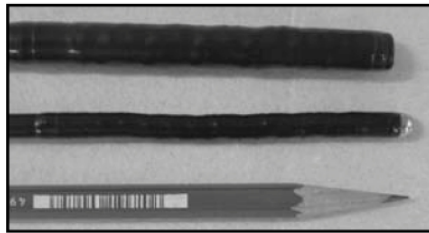
内視鏡検査は検査する部位により、種類が分かります。胃を中心に見る場合は「胃内視鏡」と呼びますが、通常は食道、胃、十二指腸をまとめて観察するので、「上部消化管内視鏡」と呼んでいます。それに対し大腸を観察する検査は「大腸内視鏡」もしくは「下部消化管内視鏡」と呼んでいます。

上部消化管内視鏡ですが、これまでは内視鏡を口から挿入する方法(経口法)が一般的でした。しかし、最近では外径が約5mmの細い内視鏡が登場し、「**経鼻内視鏡検査**」という鼻から挿入する方法で検査が行われることも増えてきています。

経鼻内視鏡検査は、内視鏡が舌のつけ根を通らず、のどにも触れないので、口から挿入する内視鏡検査に比べ、検査時の吐き気・不快感が大幅

に軽減できることが期待されます。ある病院の調査結果によりますと、経鼻内視鏡検査を受けた人の多くが楽だったと感じており、次に検査を受けるとしたら経鼻内視鏡を希望するという人が9割以上だったという報告があります。一方で、経鼻内視鏡は口から挿入する内視鏡と比較すると画質がやや劣り、精密検査が必要な際は経口による再検査が必要な場合もあります。症状がある方や、検診で異常を指摘された方は経口による内視鏡が適しています。

鼻の局所麻酔をするため、ほとんどの人は痛みを感じませんが、鼻の通りが狭い人では痛みや違和感を感じることもあります。また、検査後に鼻出血をおこすことがあるため(頻度は1〜5%)、肝硬変や血液疾患の方、抗凝固療法中



【太さの比較】

上:一般の内視鏡
中:経鼻内視鏡
下:一般的な鉛筆